

別記様式

令和7年度第5回米原市自治基本条例推進委員会 会議録（要点筆記）

会 議 名	令和7年度第5回米原市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	令和7年11月18日（火）午後7時～午後9時
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 会議室3C
出席者および欠席者	<p>出席者(順不同・敬称略)</p> <p>委 員：大橋松行会長、上田洋平副会長、植田淳平委員、 北澤あさこ委員、草野丈太委員、清水元幾委員、 高橋滝治郎委員、法山照人委員、福永ひろみ委員、 松居悟委員、山田輝子委員 (欠席：岡田友美委員)</p> <p>米原市：川瀬政策推進部長 政策推進部政策推進課：村口課長、萬木補佐、田野主幹、 小川主事 政策推進部デジタル未来推進課：堀部主任 (株)サンワコン：藤原、鹿内、西尾</p>
議 題	<p>(1) 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について (資料1)</p> <p>(2) 令和6年度企業版ふるさと納税について (資料2)</p> <p>(3) 第2回市民ワークショップについて (資料3)</p> <p>すくすく子育てカフェトークについて (資料4)</p> <p>ミライ創造セッションについて (資料5)</p> <p>(3) 将来像 (11年後にめざす米原市の姿) について (資料6)</p> <p>(4) 第3次米原市総合計画骨子 (たたき台) について (資料7)</p> <p>将来像を実現するために大切にしたい姿勢 (資料8)</p>
結 論	<p>(1) 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、外部有識者を含めたPDCAに取り組みながら交付金を活用した施策に取り組む <p>(2) 令和6年度企業版ふるさと納税について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、民間のネットワーク活用や広報PRを通じて企業版ふるさと納税に取り組む <p>(3) 第2回市民ワークショップについて</p> <p>すくすく子育てカフェトークについて</p>

	<p>ミライ創造セッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップや委員会でいただいた意見を取り入れながら、基本構想案の作成に取り組む (3) 将来像（11年後にめざす米原市の姿）について ・引き続き、将来像（11年後にめざす米原市の姿）の作成に取り組む (4) 第3次米原市総合計画骨子（たたき台）について <p>将来像を実現するために大切にしたい姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、第3次米原市総合計画骨子および将来像を実現するために大切にしたい姿勢の作成に取り組む
審 議 経 過	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について（資料1）</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組をして効果も出ているようである ・P2に「②伊吹山ライブカメラの運用」について、登山ができれば非常に効果的だが、今厳しい状態にある。例えば、現在の伊吹山と再生の取組状況等を見せる等、このカメラの使い方と活用がうまく連動できれば、良い情報発信になるのではないかな。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・P4の「④広域観光の促進」のところのマルチビジョンPRサイネージは、効果測定は難しいと思うが、どのようにしているのか。 ・米原市に来てもらう選択肢を広げるということでPRをしているが、それを見て来たということを数値で測る、効果の測定というのは難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新大阪駅は情報量が多く、効果把握は難しいが、効果はあるのではないかなと思う。 ・P6の「①スマート農業勉強会・視察会」は、非常に参加者が多い状況だと思うが、一気に進んでいるという評価はどうか。KPIの②でも、目標値が6件で、実績値が7件あったというのは分かるが、前年度のデータはどうであったのか。効果としてはどう考えれば良いのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度からスマート農業の補助金を始めた。当初は、スマート農業を導入するハードルが高く、金額面等で難しいという人もいたが、昨年度、補助金申請は8件あった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業としては増加しているということか。なかなか中山間地域では

委員	<p>難しい面もあると思うが、近江や米原等の平地では使えると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P4のKPI②について、目標値600万円に対して実績値が1億7000万円とかなり乖離があるが、そもそも目標値はこれで良かったのかということと、その内訳、何によってこれだけ売り上げがあったのかというのを知りたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ これは県主導の広域連携事業であり、県の資料によるデータであり、詳細は把握していないが、オンラインの旅行会社も活用しながら、コンテンツの創出等を図っていることが大きいと聞き及んでいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル交付については、これを通じて、職員の働き方改革等に影響が出たのか出なかったのか、そのあたりはどうなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル実装タイプで影響があった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ P13の保育園の入園選考のところでは、各家庭の環境を見ながら入園選考するという作業が全部システムとして自動的にされることになり、KPIの実績にあるように60時間分の作業時間が軽減されている。また、スマートロック導入では、鍵の受け渡しを直接することがなくなり、職員、利用者ともに負担が減少している。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も関係する事業に関わったことがあるが、米原市は他都市と比べると交付金を活用していると思う。今後の発展という意味も含めて、米原市の中で、この交付金を活用していこうとした場合、どのような課題があるか。 ・ 事務的な話になるが、交付金を申請するに当たって、市単独で申請するとかなり事務量が増えることが課題である。滋賀県が周辺市町と広域連携で交付金を使う取組を行っており、米原市は、県の計画に基づいて交付金を活用している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手続が大変だと思うが、市全体としてどれに取り組んでいくべきかを検討し、しっかりと交付金が受けられるような仕組みや運用のタイミングを見極めてやっていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ P10の公共施設の予約システムの導入であるが、私も使っているが非常に便利である。空き状況がいつでも確認でき、予約もできる。ただ、非常に便利に使っている一方で、多額の費用を要していることも認識した。 ・ 大きなイニシャルコストがかかるものについて、交付金を活用していくことが必要である。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ランニングコストは年間2200万円程度である。サブスクリプションのように月額利用料、基本料はありつつ、施設の数ごとにその利用料が毎月発生しているという形である。
会長	<ul style="list-style-type: none"> P5の「①総合的移住プロモーションの展開」のところで、LINEアカウントに約400人の友だち登録があったということは、米原市にかなり関心を持っていただいているという理解で良いか。実際には、現地見学会の参加は11組だったということで、この2つの数字について、米原市としてはどう考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 米原市を選択肢に入れてもらうというところで、何に困っているのか、米原市にどういう魅力を感じているのかについて、LINEを通じて、オンラインで気軽に聞くことができる場を作った。それに対して関心のある層が400人集まったということで、11組の参加者も含めて、かなり関心を持っていただいていると感じている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> P12の職員採用試験であるが、応募者数が前年から減少しており、また、受験辞退率も高いという結果が出ている。良い職員を採用していくことについて、市としてはどう対応していくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 応募者が少ないというところは、担当課でも課題として認識しており、今後、どのように応募者数を伸ばしていくかについては、協議をしているところである。
委員	<p>4 令和6年度企業版ふるさと納税について （資料2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的に、どこの企業が寄付してくださっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 企業名等の非公表を希望される企業もあるが、公表できる範囲としては、東口に進出される湖北工業株式会社様や、日本自動車道株式会社様等から寄付いただいた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 企業版ふるさと納税の促進に関しては、戦略的に動いているのか、あるいは、依頼があったところのみ対応しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今までは、米原市とつながりのある企業から連絡をいただくことが多かった。近年は、民間のネットワークも活用しながら、可能性がある企業を紹介いただき、市の方からも働きかけということも行っている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 最後のページに観光入込客数と移住件数が書かれているが、令和2年度の基準値よりも大幅に増えているが、市としてどのように認識しているか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、観光入込客数は令和3年に大きく減少したが、令和5年度に初めて200万人台に達した。このまま観光の施策等、引き続きPRしていきたいと考えている。 ・移住件数は累計の数値になっている。県の定義では、仕事等で必然的に米原市にきた人を移住者としてカウントはしておらず、正確な移住者の数字を割り出すのは難しい。先ほどあったようにLINEのアカウントの窓口を使う等、移住に対して様々な角度からアプローチすることで増やしていきたいと考えており、施策を進めている。
委員	<p>5. 第2回市民ワークショップについて (資料3)</p> <p>すくすく子育てカフェトークについて (資料4)</p> <p>ミライ創造セッションについて (資料5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『よくないところ、課題(弱み)』で、「働く場所が少ない」とあるが、実際には、職安に行けば求人が出ており、働ける場所は多くあるが、選択肢が少ないということだと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまでも参加した方の感覚であり、自分が働きたい職場がないといったこと等も含まれていると考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・すくすく子育てカフェトークの第2回のところで「市内からの移住・空き家活用にも補助があると良い」とあるが、本当にそうだと思う。例えば結婚して、最初は2人なので狭いアパートに住んでいるが、子どもができてもう少し広いところ住みたいと思った時に、住み替えがしやすくなるというのは非常に大事だと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4の第1回の「保育」のところで「長時部に預けられないと長く働けないのに、正規雇用でないと長時部への切り替えが認められない」とあるが、これは、市の制度的なものなのか、あるいはもう少し幅があるのか、もし幅があるのならば、こういった要望をある程度受け入れられるような、そういう制度に切り替えることも必要だと思う。市としてそのあたりの認識はどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画を作る際には、意見をそれぞれの分野で生かしながら作っていききたい。そういった中で制度的にできること、できないことがあるとは思いますが、こちらからも検討するよう促して行きたい。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことにも関連して、すくすく子育てカフェ等の中でも出て来ていると思うが、これは別の町の公共交通に関するワークショップの中でも出てきたことであるが、地方都市の子育て世代の家庭におい

事務局	<p>ては、子の送迎というのが大きな問題になっているという意見があった。米原市では、そのあたりの意見はどんな感じだったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔と違って1人で歩かせるのが心配だという意見があり、通学バスが欲しいという意見もあった。また、そういったものの裏返しで、自転車で行ける範囲に遊び場があると良いという意見もあった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私の家では、習い事や塾に行こうとすれば全て親が送迎する必要がある。スポーツ少年団に入ろうとすると、片道1時間以上、一日のうち少なくとも3時間程度は、子どもの送迎になるが、もうこれはしょうがないと思う。全て行政のサービスで賄っていただくことは難しく、できないものだと思っている。 ・今後、学校が統合されていく中で、私も塾に行きたい、スポ少に入りたいとなれば、これは必然的に親の負担になる。その地域に住む上で仕方がないことだと理解しないといけない。地方、特に山間地域では生活がしにくく、そのことを理解して住むことを決めていく必要がある。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地方における子の送迎に伴う機会損失というものに関しては、それを行政サービスだけで補うというのには無理がある。 ・その中で、私が参加したワークショップでは、子育て世代の人たちあるいは団塊世代等少し時間ができた人たちが、そのコミュニティの中で共同して送迎するというような、相互扶助的なことをどうしたら取り戻せるのか、というような議論があった。また、デジタルを活用した働き方、仕事などもあわせて、支援していくというようなことも今後非常に重要なことだと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の意識調査では、米原市を早く出ていきたいという理由として、大学生になっても家族の送迎がないと駅まで通えないということが書かれていた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これも私の実体験であるが、長浜市内の高校に行かないと進学ができなかった。私の地域には下宿以外で高校に行った人はいないため、帰って来た人も1人もいない。必然的に15歳になったら、家を出るものと思っていたが、今は自分で4人の子育てしているが、下宿をさせるのか、親戚の家に預けるのかというのが、今、15歳の子供たちに迫られる選択で、それは親の選択でもあるが、それはそれで良いとも思っている。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことを逆手に取るということも含めたやり方を考えていく

<p>委員 会長</p>	<p>必要がある。シェアハウスを作ったりするとか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。米原市民ばかりがいるシェアハウスとか。 ・私の感想であるが、資料3では、各分野をみると、都市と自然のバランス、あるいは自然との調和ということがいくつかの分野で書かれている。それと、地域資源を生かして何かを行うということも書かれている。このあたりが、第3次の計画の肝になる部分ではないかと思う。大体、このあたりは共通している意見だと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4の下の方に「おとなになっても記憶に残る思い出をたくさんつくろう」と書いてあるが、これは非常に大事なことだと思う。やはり地域、町内会の行事、地蔵盆等、私も子どもの頃の楽しい記憶はかなり残っている。子どもが大人になっても記憶に残る思い出をつくってあげるとするのは、非常に大事なことだと思う。米原市として、町内会の後押しというか、そういったことができることは何かあるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会運営の支援や、出前講座等地域における学びの支援がある。 ・地元の大人が一生懸命になってイベント等を実施してくれたというのが、子どもたちが帰ってくる地域の特徴の一つだという話もある。
<p>委員</p>	<p>6. 将来像（11年後にめざす米原市の姿）について（資料6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは総合計画策定を前提としてまとめられていると思うが、計画を実行していく過程で、市民や民間を巻き込んで取組をしていくことが重要である。 ・米原市が何かやってくれるということではなく、取組を通じて、自分たちが何かやっついていかないといけない、米原市を皆で支えるということを実現することが大事であり、資料のポイント2で書いているような内容を、一緒にやっついていくということが重要だと思う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの中で、この後もまだ続けてやっていきたいという声や、自分が市長になったらこうしたいとか、自分たちができることは何かという話も多くあり、非常に心強く思った。今回のレガシーを、実行過程においても、自分事にしてくれる人が増えるように続けて行きたいと考えている。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか難しいと思うが、ここはみんなでやっついていく、ここは特に力を注ぐ、ここは我慢するとかメリハリがあると良いと思う。自然といったところをキーワードにして、力を入れるところと、周りを

	<p>巻き込んで周りに任せるところのように分かれてくると、今までの自治体と違う姿ができてくると思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・11年後にめざす米原市の市の姿であるので、A I とか科学技術とか、そういうことも、資料のポイント3に書いてあることを将来像に盛り込めないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を楽しむというところにそういった要素を入れている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な分野で効率化が必要であり、一日の生活、一年の生活、人生を米原市で完結するのは基本的にはできないと考えると、合併という激しい言葉を入れずとも、例えば近隣市町の施設を使うといった方向性になる。今は11年後であるが、おそらく30年後には米原市が単独で存続することはないと思うと、そういうことも少し視野に入れて始めておく必要がある。 ・おそらく今後、様々な外郭団体が市町の境を越えてより効率的になる。米原の中で全て完結するのではなく、近隣市町も含めてそのような形を目指していけると良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・既に近隣にあるものは使っていく、米原市にあるものも使ってもらうという連携ができると良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードで住民票等の取得も隣の町のコンビニでできる。隣の町と行政サービスが共通化、共同化されれば、米原市には総合病院や法務局はないが、こういう機能が確立され、相互に広域で使えるようになると、市民生活はすごく利便性が高まる。何か大きなハコ物を作るよりは、お金をかけずともできるサービスはたくさんある。
	<p>7. 第3次米原市総合計画骨子（たたき台）について（資料7） 将来像を実現するために大切にしたい姿勢（資料8）</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・米原市としては特にこれだというのがあると良いと思う。各分野に様々な施策があるが、やはりこれがメインで、この施策をしていくというのがある方が、市民にとっても、外向けにとっても、分かりやすい気がするが、そのあたりはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「あなたが笑い わたしも笑う 幸せが生まれるまち しずくを恵に、未来を楽しむ米原びと」という将来像を実現するための6分野であり、どれか1つが欠けてもこの将来像は実現できないと思う。ただし、人を大事にする、自然を大事にしていく、そういうところが

委員	<p>共通する価値観である。来年度に、分野ごとに実際の事業をイメージできるような基本計画を作ることになるが、その時に一定の色が出てくると思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6分野で、思いを込めた言葉を選びながら作られているということは分かるが、当然これは一般市民の方と共有しなければならない計画であり、各分野について、どういう思いを込めたかという説明がセットであれば良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は市民ワークショップ等、様々な人に関わってもらいながら策定を進めてきた。基本構想の形が仕上がってきた段階で、その後の基本計画を策定するための意見をいただくことを考えている。地道に対話と協働を重ねながら広げていくことが大切であると考えている。 ・ 総合計画の概要版を小学生にもわかるような形で作っていこうと思っている。その中で、こういった思いも伝わるようにしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6分野について、グラフなどが示されているがこれが今の実情、現状であり、他の市町と比べて、この米原で生活をしていこう、米原に移住しようと思った時に、特別にこんな米原だからというナンバーワン戦略的なものがあると良い。 ・ 例えば、観光面で特産品を作っていこうとか、何か行政の仕組みづくりでも良いと思うが、11年後に米原にはこれがあるという町になっていけば良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の自治体と比較して、自分のまちが優れている部分を出していく比較広報という話もある。データを分析していく中で、県内でも米原市が強い分野が抽出されており、そういったところを出していけると良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近、家を買おうと思っている。検討を進める中で、やはり米原が良いという気持ちがどこかにある。なぜかと思うと、琵琶湖を見た時の情景、毎日、様子が違う綺麗な琵琶湖が前面に広がり、対岸まで景色の見えるところで暮らすというのが、私の中では非常に大きい。その自然の美しさが私を引き留めていると思う。 ・ 美しい景色を見ながら暮らせるということを打ち出していくということもあるのではないかと思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米原の自然は間違いなく値打ちがあると皆が感じており、外からも認められている。私自身は、米原市の何に良さを感じているのかと

委員	<p>いうと、人が優しいことだと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と人という2つのファクターに加えて、もう一つの何かファクターがあれば、交通利便性の良い田舎として、より強いものになると思う。ぜひそのような観点を出していきたい。 ・田舎の子育ての話であるが、15年前に私の集落では小中学生ゼロであったが、今では10人以上にまで増えた。何か地域に魅力があれば来ていただけたと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、ものづくりをする方が、米原に注目している。今までは個性的なものづくりをする人は高島を目がけて移住していたが、米原も最近増えている印象がある。クリエイティブなアーティストは、情報を発信したり、展示会等で外に出てものづくりの場所を伝えたりするので、そういった人を増やしていけたら良いと思う。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI・指標のあり方について、数値結果の要因（市の実力か、外部要因か）を分析し、市民の共感を得て次の行動・努力につながる「米原市固有の指標（ものさし）」を研究・検討し続ける必要がある。 ・子育て・移動支援について、送迎負担による機会損失の解決策として、行政サービスだけでなく、新技術や市民の共助（官民連携）、あるいは送迎自体を減らす「現代版寄宿（駅前学生シェアハウス等）」など柔軟な発想が必要ではないか。 ・広域連携・人材循環について、自前主義・自己完結から脱却し、関西・中京圏の結節点として「人材循環」を促す視点が重要。定住（Somewhere）と移動（Anywhere）の双方を併せ持つ「米原びと」像を描くべきである。 ・気候変動への認識について「人間に厳しい」気候への変化（極端気象等）を直視し、従来の農耕型生存基盤からの問い直しも迫られるかもしれないという認識を持つ必要がある。
事務局	<p>8. その他</p> <p>1) 今後の会議開催日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議は、本日の議論もベースにして基本構想案を固めたい。 <p>9 閉会</p>

会議の公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 傍聴者：1人 <input type="checkbox"/> 一部公開
-----------	---

の別	<input type="checkbox"/> 非 公 開 一部公開または非公開とした理由 ()
会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開 示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非 開 示（根拠法令等：)
全部記録の有無	会議の全部記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
担 当 課	政策推進部 政策推進課